

河合塾

立命館大学

一般選抜 英語対策講座

英語

河合塾 英語科講師

中村 雅幸

<立命館大学 入試対策講座 英語>

※配点・時間の使い方：合否を分けるのはⅢ～Ⅴの時間配分&Ⅰ・Ⅱの正答率！

I. 長文読解問題① (29点) 【25-30分】

：パラグラフの内容理解が重要！以前よりも時間をかけて正確な解釈を心掛けつつ理解しよう！

[1]内容一致問題 (4点×4問=16点)

[2]内容正誤問題 (2点×5問=10点)

[3]タイトル選択問題 (3点)

II. 長文読解問題② (31点) 【25-30分】

：これも正確な読解に基づいた前後関係の把握が重要！指示内容・具体的内容を答える問題が1問増。

[1]空所補充問題 (2点×8問=16点)

[2]具体的内容問題 (3点×5問=15点)

III. 対話文問題 (3点×8問=24点) 【5×2=10分】

：正確に読解&会話の流れをつかんで選択！

IV. 文法問題 (2点×8問=16点) 【4～5分】

：各分野の正確な知識が必要！

V. 語彙問題 (2点×10問=20点) 【6分】

：これまで以上に語彙力が要求される！

I. 長文読解問題

【基本的な解き方】

- ①【1】の内容一致問題は、はじめに(A)の設問を読んで【なんの情報の読み取りが要求されているか】を把握してから本文を読み進め、該当箇所を特定させてから解答する。その後(B)⇒(C)⇒(D)と同じ手順を繰り返す。
- ②【2】の内容正誤問題と【3】の題意選択問題の正答率を上げるために、パラグラフを読み終わったら1文1文ずつ簡単に振り返ってパラグラフの理解を深める。
- ③パラグラフ理解が一番深いうちに解ける問題を解くのが基本。【1】と【2】の問題は必ず本文の具体的箇所と照らし合わせて○or×を選択する。【2】の問題は3(判断できない選択肢)を選べるように、1と2を本文と照らし合わせて確実に選択すること。
- ④【3】はパラグラフごとの要旨を簡単にメモしておくとうまく高まる。

<第①～④パラグラフ>

① Over the last few months, coyotes¹ have been appearing on an almost daily basis in New York City — one on top of a bar in Queens, another wandering through Manhattan’s Riverside Park, a third trapped outside a restaurant in Lower Manhattan. Each of these appearances becomes material for the nightly news and daily newspapers. In fact, coyotes have been in parts of New York City for decades, and now are common in cities across the country.

② But the fact that those stories are still prominent on the news reflects New Yorkers’ fascination with nature(1-A). City residents seem to identify with the survivor instincts of wild birds and coyotes. They also tend to love stories of “survivor” trees, such as the non-native *Ailanthus altissima*, which grows from almost any surface. Threaten to cut down a tree, even if it is old and likely to fall, and the neighbors will angrily protest. And while it might seem to people who have never visited New York City that it is the last place for nature and humans to interact, in fact more than 50 percent of the parks in the city are “natural,”(2-1) according to the Trust for Public Land’s *2015 City Park Facts*.

③ So what do people actually think about nature in the form of parks, and what are the interactions that people have with parks and nature? What do they look for when they go to a park, and how far are they willing to travel to get there(1-B-3)? Are they looking for experiences with nature that are active, as in fishing, or passive, as in simply experiencing nature and finding a place of refuge² there?

④ Those were some of the questions asked by researchers from the US Forest Service in a study done through interviews with visitors to New York City parks in 2013. A report on the study, *Reading the Landscape*, was issued in March of this year, and it contains fascinating information on how New Yorkers interact with the parks along the city’s Jamaica Bay(2-2), many of them natural, with tidal wetlands³, coastal meadows⁴ and forests, and even freshwater wetlands. The study was limited to 17 parks covering 2,140 acres⁵ along the edge of Jamaica Bay, whose bordering neighborhoods have over 900,000 residents — more than many of the largest American cities. Observations were made to record how people used the parks, and the research teams conducted 681 in-person interviews with park users(1-B-1/1-B-2).

- (注) 1. coyote コヨーテ
2. place of refuge 逃げ場、いやしの場
3. tidal wetland 干潟
4. meadow 牧草地
5. acre エーカー

【和訳】

① 「NYにおけるコヨーテの出現と報道」

これまでの数か月にわたって、コヨーテがニューヨークにほとんど毎日現れてきた。一頭はクイーンズのバーの屋根に、もう一頭はマンハッタンリバーサイドパークを歩き回り、3頭目はローワー・マンハッタンのレストランの外で罠にかかっていた。これらの出現のそれぞれは夜のニュースや日刊新聞の素材となる。実際、コヨーテは何十年にもわたってニューヨークの各地にいたのであり、現在もアメリカ中の各都市でよく見られる。

② 「NY市民は自然に魅了されている」

しかし、それらの話が依然としてニュースにおいて目立っているという事実は、ニュー Yorker たちが自然に魅了されていることを映し出している。都会に住む人たちは野生の鳥やコヨーテの生存本能に共感しているようなのだ。彼らはまた、ほとんどどんな地表面かも成長する、アメリカ自生ではない庭漆（にわうるし）のような「長く生き延びている」木の話を楽しむ傾向がある。たとえ古い木で倒れそうになっているとしても、ある木を切り倒すと言って脅してみれば、近隣の住民たちは怒って抗議するだろう。そしてニューヨークに行ったことのない人たちにはニューヨークは決して人間と自然が関わり合いそうにない場所に思えるけれども、the Trust for Public Land’s 2015 City Park Factsによれば、実際にはニューヨークの公園の50パーセント

以上が「自然の」公園なのである。

③ 「NY市民と自然との関わりはどのようなものか？」

では、人々は実際に公園という形の自然についてどう思っているのだろうか、そして人々が持つ公園や自然とのやりとりとはどういったものなのだろうか？彼らは公園に行くとき何を求めている、そこへ行くためにはどれほど遠くまで出かける気があるのだろうか？彼らは例えば釣りにおいてそうであるように、積極的な自然体験を求めているのだろうか、それとも例えば単に自然を経験しそこに癒しの場を見つけることにおいてそうであるように、受動的な自然体験を求めているのだろうか？

④ 「ジャマイカ湾沿いの公園訪問者に↑の質問をして研究&レポート作成」

上記は 2013 年にニューヨーク市の公園を訪れた人へのインタビューを通じて行われた研究の中で、アメリカ森林局の研究者によって行われた質問である。その研究に関する「景観を読む」というレポートが、今年の 3 月に発行されたが、そこにはニューヨーカーが、多くが自然でのもので、干潟や沿岸の牧草地や森、淡水の湿地すらある、ジャマイカ湾沿いの公園とどのように関わり合っているかに関する魅力的な情報が含まれている。そのレポートはジャマイカ湾沿いの 2,140 エーカーを覆う 17 の公園に限られていて、その近隣には、アメリカの大都市の多くよりも多い、90 万もの住人が住んでいる。人々がどのように公園を利用しているかを記録するために観察がなされ、研究チームは公園の利用者に 681 回もの直接のインタビューを行った。

[1] 本文の意味、内容にかかわる問い(A)~(D)それぞれの答えとして、本文にしたがって最も適当なものを(1)~(4)から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

(A) According to the text, why does the media continue to report sightings of wild coyotes in New York City?

「文章によると、なぜメディアはニューヨーク市の野生のコヨーテの目撃情報を報道し続けるのだろうか？」

(1) Because New Yorkers have a great interest in nature.

「ニューヨーク市民たちは自然にとっても関心があるから」

(2) To encourage people to interact with nature more than they already do.

「人々に、すでにしている以上に自然と関わり合うよう促すため」

(3) Because people need to be aware of the dangers of wildlife in urban areas.

「人々は都会における野生動物の危険を意識する必要があるから」

(4) To draw attention to the decline of wild coyotes in New York City in recent years.

「近年のニューヨーク市における野生のコヨーテの減少に注意を引くため」

(B) Which of the following is NOT true of the study reported in Reading the Landscape?

「以下のうち、『景観を読む』で報告された研究について当てはまらないものはどれか？」

(1) It involved hundreds of interviews with people who visited the parks.

「その研究は公園を訪れた人々への数百のインタビューを含んでいた」

(2) It directly investigated how people used the parks included in the study.

「その研究は人々が研究に含まれた公園をどのように利用していたかを直接調査していた」

(3) It documented how far people were prepared to go to visit parks along Jamaica Bay.

「その研究は人々がジャマイカ湾沿いの公園を訪れるためにどれだけ遠くまで行くつもりがあるかを記録した」

(4) It focused on collecting new information from visitors to natural areas other than parks.

「その研究は公園以外の自然のエリアを訪れる人たちから新しい情報を集めることに焦点を当てた」

[2] 次の(1)~(5)の文の中で、本文の内容と一致するものには 1 の番号を、一致しないものには 2 の番号を、また本文の内容からだけではどちらとも判断しかねるものには 3 の番号を解答欄にマークしなさい。

(1) Over half of the parks in New York City are considered natural.

「ニューヨーク市の公園の半分以上は自然のものであると考えられている」

(2) Jamaica Bay was only one of several different natural areas of New York City used for the study.

「ジャマイカ湾は研究に用いられた、ニューヨーク市のいくつかの異なる自然エリアの 1 つにすぎない」

(3) The study will help us understand how to get more people to participate in conservation programs.

「その研究は、私たちがどのようにしてより多くの人々に自然保護プログラムに参加してもらうべきかを理解するのに手助けしてくれるだろう」

(4) Most visitors who travel more than a mile to get to the parks use their cars.

「公園に行くのに 1 マイル以上移動する訪問者のほとんどは、自分の車を利用する」

(5) A second, more detailed survey was carried out three years after the initial one.

「2 つ目の、より詳細な調査が、最初の調査の 3 年後に行われた」

[3] 本文の内容を最もよく表しているものを(1)~(5)から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

(1) Urban wildlife and natural areas in New York City

「ニューヨーク市における都会の野生動物と自然エリア」

(2) New Yorkers' recent fascination with natural areas and wildlife

「ニューヨーク市民たちが近年自然エリアと野生動物に魅了されていること」

(3) A study into the financial benefits to humans of natural areas in cities

「都会の自然エリアが持つ、人間にとっての金銭的利益の研究」

(4) An assessment of how people connect with natural areas in a major city

「人々がどのように大都市の自然エリアとつながっているかの評価」

(5) The value of natural areas in helping us to escape from crowded and noisy cities

「自然エリアの、私たちが混雑して騒々しい都会から逃れるのを手助けすることにおける価値」

II. 長文読解問題

【基本的な解き方】

- ①【1】空所補充問題は完全な文脈把握型の問題。前後 2～3 文を読んでその流れを意識したうえで解きたい。自分で自分に対して説明してあげるように内容を理解する。
- ②【2】は基本的に it/this/the/she など指示語の具体的指示内容を指す問題。まずは前後を正確に読む。そのあとに読んだ箇所を大雑把に（わかるまで何度も自分に説明しながら）読み直す。そうすると人物・物事の関係が整理されて、指示内容が見えやすくなる。
- ③最近【2】に指示語ではないが具体的内容を聞く問題もある。その際はどちらかと言えば【1】の問題の解き方に近くなる。

<第①～②パラグラフ>

① Imagine standing up to give a speech in front of an audience. While you are speaking, someone in the room uses a clicker to count your every stumble and hesitation — every one of your *ums* and *uhs*¹. Once you've finished, this person loudly announces how many of these have spoiled your presentation. ⓐ **This** is the method used by the Toastmasters public-speaking club². As part of the training, one person has the job of counting the speaker's *uhs*. The club's measures may be extreme, but they reflect the folk wisdom that *ums* and *uhs* are the mark of a nervous, ignorant, and careless speaker, and should be **(A)** at all costs. Many scientists, though, think our cultural obsession³ with eliminating what they call “disfluencies⁴” is **(B)**. Saying um is no weakness of character, but a natural feature of speech; far from distracting listeners, there's evidence that it focuses their attention in ways that improve comprehension.

② Disfluencies arise mainly because of the **(C)** speakers face. Speakers have to talk and think at the same time, launching into speech with only a vague sense of how a sentence will unfold, confident that by the time they've finished the earlier parts of the sentence, they'll have worked out exactly what to say in the later parts. Mostly the timing works out, but occasionally it takes longer than expected to **(D)**. Saying *um* is the speaker's way of signaling that processing is still going on. People sometimes have more disfluencies while speaking in public, ironically⁵, because they are trying hard not to make mistakes.

- | | | |
|-----|--------------------------------------|---|
| (注) | 1. um / uh | うーん、えーっと |
| | 2. Toastmasters public-speaking club | トーストマスターズクラブ（パブリックスピーチや話し方、リーダーシップスキルの上達を目的とする世界的な団体） |
| | 3. obsession | 強迫観念 |
| | 4. disfluency | 流暢でないこと、言いよどみ |
| | 5. ironically | 皮肉なことに |

【和訳】

① 立ちあがって聴衆の前で演説をすることを想像してみなさい。話している間、部屋の誰かがクリッカーを用いてあなたのつまづきやためらい全て、つまりあなたの「うーん」や「えーっと」の全てを数える。あなたが演説を終えると、この人間がこれらのつまづきやためらいのどれだけがあなたのプレゼンテーションを台無しにしたかを声高らかに発表する。⑥これはトーマスマスターズ・パブリックスピーカーズ・クラブによって用いられる手法である。訓練の一部として、ある人は話し手の「えーっと」を数える仕事を受け持つ。このクラブのやり方は極端であるかもしれないが、「うーん」や「えーっと」は神経質で無知で不注意な話し手のしるしであり、どんな犠牲を払っても(A)避けられなければならないという民衆の知恵を反映しているのである。しかし、多くの科学者は、彼らが「言いよどみ」と呼んでいるものをなくすことに対する私たちの文化的な強迫観念が(B)深く誤っていると考えている。「うーん」ということは性格の弱点などではなく、話すことのもともとの特徴である。聞き手の注意をそらすどころか、彼らの注意を集中させ、理解を改善するという証拠がある。

② 言いよどみは主に、話者が直面する(C)時間のプレッシャーのせいで生じる。話者は、ある1文の最初の方が言い終わるまでには後半で何を言うべきかを正確に構築しているだろうとの確信をもって、ある1文がどのように展開するかについてぼんやりした感覚しかもたないまま話し始め、同時に話しながら考えなければならない。たいていその時間調整はうまくいくのだが、ときおり(D)適切な表現を見つけるのに予期したよりも時間がかかってしまうことがある。「うーん」と言うことは、思考処理が依然として続いていることを話者が伝える方法なのである。人々は時々、人前で話す時の方がより言いよどむ場合があるが、それは皮肉なことに、彼らが間違いをしないように懸命に努力しているからなのである。

[1] 本文の(A)～(H)それぞれに入れるのに最も適当なものを(1)～(4)から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- (A) (1) avoided 「避けられる」 (2) ignored 「無視される」
(3) practiced 「実行される」 (4) preserved 「保存される」
- (B) (1) deeply mistaken 「深く誤った」 (2) fundamentally important 「根本的に重要な」
(3) only natural 「自然なものにすぎない」 (4) sometimes forgotten 「時々忘れられる」
- (C) (1) comprehension difficulties 「理解の困難」
(2) general criticism 「一般的批判」
(3) lengthy training 「長さの訓練」
(4) time pressures 「時間のプレッシャー」
- (D) (1) check for disfluencies 「言いよどみを調べる」
(2) find the right phrase 「適切な表現を見つける」
(3) read to the end 「最後まで読む」
(4) remember the time 「時間を覚えておく」

[2] 下線部(あ)～(お)それぞれの意味または内容として、最も適当なものを(1)～(4)から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- (あ) This
- (1) Loudly announcing presentations 「大声でプレゼンテーションを発表すること」
(2) Strictly monitoring ums and uhs 「厳しく『うーん』や『えーっと』をチェックすること」
(3) Speaking in front of an audience 「聴衆の前で話すこと」
(4) Using a clicker to help time a speech 「スピーチの時間を計る手助けをするためにクリッカーを使うこと」

Ⅲ. 対話文問題

【基本的な解き方】

- ※ 1. 2人の登場人物を頭でイメージし、実際に頭の中でしゃべらせながら読んでいく。
- ※ 2. 最も大切なことは「正確に英文・選択肢を読む」こと。これができないと正答率は下がる。
- ※ 3. 空所の後すぐ選択肢を見ない（流れを切ってしまう）。空所の次の人の発言（時には次の次の人）まで読んで流れを確認してから選択肢をチェックする。
- ※ 4. 初見で入れられない場合には無理に選択肢を選ばず、全部読み終わってから戻ってきて2度目で選択する。
- ※ 5. 時々前後の答え方との対応を考慮した文法的観点で選択をする問題もある（例：[2]のか）。

〔1〕 次の会話の㉠～㉥それぞれの空所に入れるのに最も適当な表現を(1)～(10)から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

<p><i>At a gym</i></p> <p>A: Hello, Hikaru. It's been a while. (㉠)</p> <p>B: Actually, about 10 kilos in the past six months.</p> <p>A: Wow! How did you do that?</p> <p>B: I decided to cut down on how much I eat two days a week.</p> <p>A: That sounds interesting. (㉡)</p> <p>B: Two small meals. For breakfast, I eat some fruit and then only vegetables for dinner.</p> <p>A: Oh. (㉢)</p> <p>B: Not really. It's easier than you think. (㉣)</p> <p>A: Oh? Why's that?</p> <p>B: Because I'm eating less meat and that helps the environment. Not just me!</p>	<p><i>ジムにて</i></p> <p>A: 「やあヒカル。久しぶり。(2)やせた?」</p> <p>B: 「実はこの6か月で約10キロ痩せたんだ」</p> <p>A: 「ええ、どうやって?」</p> <p>B: 「週に2日は食べる量を減らすことに決めたんだ」</p> <p>A: 「それは面白いね。(5)僕にもできそうだ」</p> <p>B: 「2回の軽い食事。朝ごはんにはフルーツを、それから夜には野菜だけ食べるんだ」</p> <p>A: 「なんと。(1)それは難しそうだね」</p> <p>B: 「そんなことないよ。思ったよりは簡単だよ。(7)そして地球にも良いしね」</p> <p>A: 「ええ?なぜそうなの?」</p> <p>B: 「だって食べる肉も減らしているから環境の助けにもなるしね。自分だけじゃなく!」</p>
---	--

- (1) That sounds tough. 「それは難しそうだね」
- (2) Have you lost weight? 「痩せた?」
- (3) I'm a vegetarian myself. 「僕自身が菜食主義者なんだ」
- (4) How much do you weigh? 「体重はどれくらい?」
- (5) I'm sure I could do that too. 「きっと私もやろうとすればできるよ」
- (6) What would you like to have? 「何が食べたい?」
- (7) And it's good for the planet too. 「そしてそれは地球にもいいよね」
- (8) What do you have on those days? 「そういう日には何を食べるの?」
- (9) I'm not eating so many cookies either. 「僕もそんなに多くのクッキーは食べないよ」
- (10) And I'm fitting into all my old clothes again. 「そしてもう一度古い服が着られるんだよ」

[2] 次の会話の(か)～(け)それぞれの空所に入れるのに最も適当な表現を(1)～(10)から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

<p><i>At a university</i></p> <p>A: Excuse me! (か)</p> <p>B: Yes, it is! Come on in. What brings you here today?</p> <p>A: I'm your new student Ashley Smith. (き)</p> <p>B: Oh yes! The Wednesday class at 8:00 a.m. Do you have something for me?</p> <p>A: Yes, I'm here to hand in the assignment. Sorry I couldn't attend the first class. I had to go to a wedding.</p> <p>B: (く) I'll look over it and give you some feedback.</p> <p>A: Thank you. Wow, you have a lot of books in here! Do you have any recommendations to help me understand the class better?</p> <p>B: Hmm, I think this one might be helpful, even though it takes a while to read. Here, you can borrow it.</p> <p>A: Thank you! I'll try to read it quickly.</p> <p>B: No need to rush! (け) See you in class next week!</p>	<p>大学にて</p> <p>A: 「すみません！(5)ジョンソン教授のお部屋ですか？」</p> <p>B: 「そうです。お入りください。今日はどんなご用事ですか？」</p> <p>A: 「私は新生生のアシュリー・スミスです。(8)先生の朝の経済学の授業にいます」</p> <p>B: 「ああ！午前8時の水曜の授業ですね。何か私に伝えたいことがあるのですか？」</p> <p>A: 「私は課題を提出するために来ました。最初の授業に出られずにすみません。結婚式に出席しなければならなかったのです」</p> <p>B: 「(2)それは無理もないですね。目を通して後で感想を伝えますね」</p> <p>A: 「ありがとうございます。わあ、ここには沢山の本がありますね。授業をもっと理解する手助けになるおススメの本はありますか？」</p> <p>B: 「そうだね。この本なんかは読むのに時間がかかるけど、役に立つかもしれません。ほら、貸してあげます」</p> <p>A: 「ありがとうございます。すぐに読みますね」</p> <p>B: 「急ぐ必要はありません！(10)学期末までに返してくれれば良いです。また来週の授業で会いましょう！」</p>
---	--

- (1) Is the professor in? 「教授は中におられますか？」
- (2) That's understandable. 「それは仕方ないですね (←理解できます)」
- (3) I don't accept late papers. 「遅れたレポートは受け付けません」
- (4) Is this the class for economics? 「これは経済学の授業ですか？」
- (5) Is this Professor Johnson's office? 「こちらはジョンソン教授の部屋ですか？」
- (6) I need it back as soon as possible. 「できるだけすぐに返してもら必要があります」
- (7) Where should I hand in this report? 「このレポートをどこで提出すべきでしょうか？」
- (8) I'm in your morning economics class. 「先生の朝の経済学の授業にいます」
- (9) I attend your Wednesday evening class. 「先生の水曜夕方の授業に出席しています」
- (10) Just return it by the end of the semester. 「学期の終わりまで返してくれれば良いですよ」

IV. 文法・語法問題

【基本的な解き方】

※1. 英文を正確な日本語に訳す。

※2. 選択肢や空所の前後を見て問題のポイントを意識し、解答する。高得点をとるためには、単元別の文法・語法の問題集をやる際に普段から【ポイントアウトプットする意識】を持つことが重要。

IV 次の(A)～(H)それぞれの文を完成させるのに、下線部の語法として最も適当なものを(1)～(4)から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

(A) My cousin has been considering _____ a new car.

- (1) buy
(2) buying
(3) of buying
(4) to buy

「私のいとこは新しい車を買うことをずっと検討している」

☞【動詞の語法】consider *doing* 「...することを検討する」

(B) Since this animal likes warm temperatures, you should _____ it get very cold.

- (1) let not
(2) let's not
(3) not let
(4) not letting

「この動物は温暖な気温を好むので、あまり寒くさせるべきではない」

☞【使役動詞】let O do 「O が...するのを許す/O に...させる」

(C) Our boss would like the task _____ by the end of the day.

- (1) be finished
(2) finish
(3) to be finished
(4) to finish

「私たちの上司はその日の終わりまでにその仕事を終わってもらいたがっています」

☞【動詞の語法】would like O to do 「O に...してもらいたい」(≒want O to do)

(D) You cannot be _____ careful when you drive a car.

- (1) far
(2) much
(3) no
(4) too

「運転するときは、どれだけ注意してもしすぎることはない」

☞【助動詞の慣用表現】cannot V too ... 「どれだけ...V してもしすぎることはない」

(E) Thanks for the offer of help, but I need to do it _____.

- (1) all mine
(2) by my own
(3) for myself
(4) only me

「助けの申し出に感謝はしますが、自分でしなければなりません」

☞【品詞（副詞句の選択）】for oneself 「独力で」(≒on one's own / by oneself)

(F) I like this architecture _____ the better for its imperfections.

- (1) all (2) far
(3) so (4) such

「私は不完全性であるがゆえにこの建築物がより一層好きだ」

☞ 【比較】 all the 比較級+理由表現 「...なのでその分だけいっそう～」

(G) Five passengers in this small car _____ many.

- (1) are less (2) are quite a
(3) is much to (4) is one too

「この小さな車に5人の乗客は1人余計である(1人多すぎる)」

☞ 【SとVの一致】 Sが複数形でもひとまとまりの場合には単数扱いする

☞ 副詞の too 「...すぎる」の前には超過分の差が来ることがある

ex) much too young 「あまりに若すぎる」 a little too young 「少し若すぎる」

(H) I am looking for a spoon _____ eat this fruit pudding.

- (1) by that I can (2) which I can
(3) which is able to (4) with which to

「私はこのフルーツプリンを食べるためのスプーンを探しています」

☞ 【to不定詞と関係代名詞】 a spoon with which to eat ... 「...を食べるためのスプーン」

(= a spoon to eat ... with)

V. 語彙問題 (動詞・形容詞・名詞)

【基本的な解き方】

※1. [1]、[2] ともにとにかく知っているかどうかが全て。大学生として英語の学習を継続するに十分な語彙力を見ている。

※2. [1] の選択肢、[2] の下線部がわからない場合、文脈で解くことができる問題もある (全てではない)。

※3. 知らない選択肢は基本的には無視して残りの選択肢から選ぶ。残りの選択肢が×な場合のみ知らない選択肢を選択する。

Point. 普段からどのようにして語彙力を高めるのかが超重要。

[1] 次の(A)~(E)それぞれの文を完成させるのに、下線部に入れる語として最も適当なものを(1)~(4)から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

(A) These clothes will fit in this bag if you _____ them in half.

(1) fold 「折りたたむ」

(2) list 「一覧に挙げる」

(3) order 「注文する」

(4) stretch 「伸ばす」

「これらの服は、半分に折りたたんだらこのかばんに収まるでしょう」

(B) The subway lines look like patterns of leaf _____.

(1) vegetarians 「菜食主義者」

(2) veins 「静脈、血管」

(3) vices 「悪、飛行」

(4) visas 「ビザ、査証」

「地下鉄の路線は葉脈の型のように見える」

(C) You don't have to _____; no one will hear us.

(1) flock 「群がる」

(2) lodge 「宿泊する」

(3) sneeze 「くしゃみする」

(4) whisper 「ささやき声で話す」

「ささやき声で話さなくてもいいよ。誰も私たちの声は聞こえないから」

(D) The science teacher explained that when _____ cools, it becomes a kind of rock.

(1) conquest 「征服」

(2) consensus 「意見の一致」

(3) instinct 「本能」

(4) lava 「溶岩」

「科学の先生は、溶岩が冷却されるとある種の岩になることを説明した」

(E) It is rather _____ that you couldn't answer those questions because you are considered an expert in the field.

- (1) contemporary 「現代の、同時代の」 (2) formidable 「恐るべき」
(3) isolated 「孤立した」 (4) odd 「奇妙な」

「君はその分野の専門家と思われているんだから、あれらの質問に答えられなかったのはかなり奇妙だね」

[2] 次の(A)~(E)の文において、下線部の語に最も近い意味になる語を(1)~(4)から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

(A) I insist that I did not make such a remark.

- (1) consider 「考慮する」 (2) maintain 「主張する」
(3) suggest 「提案、示唆する」 (4) trust 「信頼する」

「私はそのような発言をしていないと主張します」

(B) We should remain faithful to our principles.

- (1) calm about 「~について落ち着いた」 (2) limited to 「~に限られた」
(3) loyal to 「~に忠実な」 (4) silent about 「~について沈黙した」

「私たちは自分たちの主義に対して忠実であるべきだ」

(C) They both flunked their exams at school.

- (1) corrected 「正す、修正する」 (2) failed 「失敗する、落第する」
(3) hated 「憎む、嫌う」 (4) took 「受ける」

「彼らは両方とも学校での試験に落第した」

(D) It was the convention for men to wear makeup in 18th century Britain.

- (1) custom 「慣習」 (2) decision 「決定」
(3) exception 「例外」 (4) requirement 「要求」

「男性は18世紀イギリスでは化粧するのが習わしだった」

(E) It was your attitude that wrecked our friendship.

- (1) changed 「変える」 (2) encouraged 「促す、励ます」
(3) ruined 「台無しにする」 (4) weakened 「弱める」

「私たちの友情を台無しにしたのは君の態度だった」

【勉強のコツ】～本番までに最大限実力を UP するための**勉強法**！

[1] 過去問の見直し・フィードバック

① 答え合わせをして解説を読んで納得するだけでは、「言われたらわかるが自分ではできない」状態から抜け出すことはできません。解く最中から根拠が怪しい設問には？マークをつけて、採点后、間違った問題と？マークがついた問題は、解説を見る前に自分で考えると効果的。

② 過去問を解いた際には、必ず**【語句リスト】**を作成しよう。知らない語句は書きだして、辞書を引いて①基本レベル、②重要レベル、③ちょいムズレベルに識別すると、志望大学の問題における「自分の語彙力」がだんだんと見えてくる。

[2] 単語力の増強

・最後まで語彙力はまだまだ伸びる！単語帳のみに頼らず、基本語・重要語レベルまで覚えよう！

・記憶のコツ = **【印象×回数】**

① 目で覚える、書いて覚えるだけでなく、「耳と口で覚える」=英語と日本語の意味を口で発音して「音」として記憶に残そう（発音・アクセントのためにも重要）！

② その日に覚えるべき単語は必ず「覚えたかどうかをチェック」してその日の単語は終了。

これだけでも印象の残り方が違います。

③ 単語帳を一通り終えてから2回目ではなく、100～200個ごとに再度確認してから次へ！

④ 接尾辞に注意して、派生語も一緒に覚えておこう！

ex) respect 【動詞】「...を尊敬する」 【名詞】「尊敬、敬意、点、関連」

respectful 【形容詞】「敬意を持った」

respectable 【形容詞】「尊敬に値する」

respective 【形容詞】「それぞれの」

respectively 【副詞】「それぞれ」

⑤ ここまできたら多義語などに入って単語力の質を高めるべし。

[3] 熟語の増強

① 純粋な丸暗記は非効率！文法的知識を使って直訳を作れば覚えやすい熟語も多い！

ex) make oneself understood 「自分の意思を通じさせる」

ex) get along with A 「Aとうまくやっていく」

ex) anything but A 「決してAではない」

② 熟語はリズムを持つので音を利用することも大切！ [英語⇒日本語] で声に出して覚えよう！

[4] 文法・語法力の増強

基本的な文法・語法問題を確実に正解できるように、文法・語法問題集を最後まで効率的に勉強しよう！

- ①頻出単元はどの単元がというよりも、各単元の重要ポイントがまんべんなく出題される（その中でも特に動詞の文型・語法・熟語は頻出）。
- ②解けるかどうかではなく、その問題のポイントが何かを意識して勉強しよう。解く際にポイント・理由を言えない場合には印をつけて、正解できてもしっかりそのポイントを確認しよう。
- ③ポイントを押さえるためには自分の言葉に直してみよう（できればノートに書いて）。
- ④後に解きなおしをする際にポイントに気づけるかどうかが重要！

[5] 読解力の増強 ～これから1か月で、精読力&速読力を最後まで磨こう！

- ①過去問を解く際は、メリハリをきかせて英文を読もう。①流れや大意をつかむ際は速読、②正確に解釈したり設問を解くカギになる箇所は精読（文構造・修飾関係・接続関係）に注意を払って丹念に読んでいこう。その際文構造や内容がわからない箇所は？マークをつけて、解いた後の見直しの際には重点的にチェックしよう。
- ②どんな設問にも作成者の狙いがある。記号問題も単に正解すれば **O.K.**ではなく、ちゃんと正解の根拠が言えるかどうかを重視しよう（単語・熟語の意味なのか文脈なのか）。
- ③答え合わせをして、解説を読んで、文構造と設問解答のポイントを抑えて、英文全体の意味が理解できるようになったら、速読力の強化のためにぜひ英文を音読しよう！
[a]意味のカタマリごとに [英語⇒日本語] の順に音読（日本語も大事！）
[b]カタマリは始めは短くても OK! だんだん長くなっていくはずですよ。
[c]言っている英文の意味が頭に浮かんでいるくらい ゆっくりのスピードで！

【MEMO】

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

ひとりひとりの
現役合格
プログラム、
始動。

待ってろ、
現役合格。



校舎案内

京都校
☎ 0120-070-475 **高校**

- 地下鉄烏丸御池駅から徒歩2分
- 阪急烏丸駅から徒歩7分

岸和田教室*
☎ 0120-190-468 **高校**

- 南海岸和田駅から徒歩5分

大阪北キャンパス **大阪校**

☎ 0120-070-471 **中3 高校**

- 地下鉄中津駅から徒歩2分
- 阪急大阪梅田駅から徒歩6分

神戸三宮校
☎ 0120-070-526 **中3 高校**

- JR三ノ宮駅から徒歩2分
- 阪急・阪神 神戸三宮駅から徒歩3分

甲子園教室*
☎ 0120-190-476 **高校**

- 阪神 甲子園駅から徒歩2分

大阪北キャンパス **東大・京大・医進館**

☎ 0120-070-362

- 地下鉄中津駅から徒歩1分
- 阪急大阪梅田駅から徒歩6分

豊中教室*
☎ 0120-190-463 **高校**

- 阪急豊中駅から徒歩3分

三田教室*
☎ 0120-190-477 **高校**

- JR・神戸電鉄 三田駅から徒歩2分

上本町校

☎ 0120-070-953 **高校**

- 地下鉄谷町九丁目駅から徒歩2分
- 近鉄大阪上本町駅から徒歩2分

高槻教室*
☎ 0120-190-461 **高校**

- 阪急高槻市駅から徒歩2分

西大寺教室*
☎ 0120-190-485 **高校**

- 近鉄大和北大寺駅から徒歩2分

天王寺校

☎ 0120-070-014 **中宇 高校**

- JR天王寺駅から徒歩5分
- 地下鉄天王寺駅から徒歩6分

堺東教室*
☎ 0120-190-466 **高校**

- 南海堺東駅から徒歩3分

八木教室*
☎ 0120-190-486 **高校**

- 近鉄大和八木駅から徒歩2分

※中学グリーンコースは中高一貫校生対象です。 ※(学)河合塾主催、ただし、*(株)河合塾進学研究社主催の校舎です。

受付時間

[大阪校、上本町校、天王寺校、京都校、神戸三宮校]
11:30～19:30 (日曜・祝日は11:30～17:00)
※8/31(月)は受付を行いません。

[各教室]
15:00～19:30 (日曜は受付を行いません)

キミが、いちばん望む合格へ。

河合塾